

011709その他の製造業－その他における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
2022	3	14 ～ 16	書籍のピックアップ及び発送を行う事業場において、倉庫奥の書籍保管ラック前で倒れている被災者が発見され、同日死亡したもの（大腿骨骨折、脳挫傷、脾損傷あり）。保護帽なし。周囲でラック1層目に積まれていた書籍が崩れており、当該書籍に足形が残っていたことから、書籍を踏み台にしたところ体勢を崩して床面に転落したものと推定される。	611	1	10～ 29
2022	4	14 ～ 16	肥料製造設備において、故障のため停止していたサイロの部品交換を実施したがサイロの攪拌部が作動しないため、責任者と被災者でサイロ内に入り固着物を搬出していた。サイロ内の粉塵やにおいを除去するため、サイロ上部（高さ約6m）にある投入口を開放することになり一度サイロから出た。責任者が別の作業をしていたところ、被災者の声が聞こえたので振り向いたところ、墜落するのが見えたもの。	391	1	1～9
2022	7	18 ～ 20	被災者と労働者Aの2名で、隣接して2基ある家畜用飼料製造用コンベヤーの清掃作業を行っていたところ、労働者Aが運転しながら調整していた隣接するコンベヤーに、被災者が巻き込まれたもの。被災者が清掃するコンベヤーは停止していた。	224	7	1～9
2022	10	8 ～ 10	被災者は最大積載量4トンの貨物自動車の運転席上部に設置してあるルーフキャリアの上に乗る、荷台を向きながら、荷台上の荷物（藁）にかけていたシートのゴムを両手で持って当該シートを運転席側に引っ張る作業をしていたところ、シートとゴムを緊結している部分がちぎれ、引っ張っていた反動で被災者は高さ約2.3mから地面まで墜落し後頭部を打撲した。保護帽未着用。	221	1	1～9

2022	12	10 ～ 12	アコーディオンカーテンの設置作業にあたり、高さ2.6mの脚立のうち、1.74m若しくは2.02mの踏面部分に乗ってタッチアップ作業（仕上げのペンキ塗り作業）を行っていたところ、同箇所から誤って墜落し、床面で頭を強く打ち、約1時間半後に死亡した。	371	1	10～ 29
2021	8	18 ～ 20	燐炭自動充填機の可動部分（※1）とフレームの間に胸部を挟まれて死亡した（※2）。（※1）燐炭を充填した袋を密封する装置に送る部分。エアシリンダで水平方向にスライドする。（※2）災害発生日、遅番で一人作業を行っており、翌朝死亡状態で発見された。	169	7	1～9
2021	8	14 ～ 16	菌床椎茸の製造工程において、被災者は圧力容器で殺菌した菌床の台車を取り出し室に移動させ、圧力容器の出口の扉を閉めるスイッチを押そうとしたところ、非常停止装置が作動しており扉が閉まらなかった。非常停止装置の解除を行おうとするも解除方法が分からず、取り出し室に計25分滞在していたところ、圧力容器から出てくる熱風により室温が上昇して熱中症を発症。救急搬送されたが、4日後に多臓器不全で死亡したもの。	715	11	10～ 29
2021	9	12 ～ 14	被災者は、フレコンバックが入った金属製の格子状のケース（1.8m×1.8m×1.8m）の中に入り、フォークリフトの爪にフレコンバックの紐をかけて、フォークリフトの運転士に合図を行った。合図を受けたフォークリフト運転士が、マストを上昇させ後退していたときに、被災者がケースの端から転落し、頭部を打って負傷した。負傷後、すぐさま病院へ搬送し、治療を行ったが後日死亡した。	611	1	10～ 29
2020	1	16 ～ 18	職場の上司によるハラスメント行為があり、それによって気分障害を発症し自殺したもの。	911	90	1000 ～ 9999
2020	3	6 ～ 8	パンの耳が入ったキャスター付きパレテーナ（約500kg）がトラックの荷室から落下し、キャスター付きパレテーナとプラットホームの間に被災者が挟まれたもの。病院にて治療を行っていたが、後日死亡した。	362	4	10～ 29
			残さい等の産業廃棄物を粉碎する機械の清掃作業に伴い、粉碎中に機械か			

2020	4	16 ～ 18	ら発生する流出物から固形物を濾しとるためにダクト（断面積1 m×1 m、深さ4 m）の底に設置されているストレーナーを回収するためにテルハでつり上げようとしたところ、テルハのフックから外れてしまっていたことから、取り付けるためにテルハのフック及びスリングにしがみつきながらダクト内部に降り、取り付けた直後に痙攣し意識を失ったもの。	714	12	50～ 99
2020	8	14 ～ 16	事業場敷地内にて、同僚1名と動物の原皮をパレットに乗せる作業をしていたところ、作業中に被災者の顔色が悪くなった為、同僚が休憩を指示し、被災者は壁にもたれながら休憩室まで歩いている途中で倒れた。救急搬送されたが病院で死亡が確認され、死因は熱中症と診断されたもの。作業場所は壁の1面だけが外気に開放され、扇風機があるのみで休憩室含め建物内に冷房の設備はない。当日の最高気温は約32度であった。	715	11	1～9
2019	2	14 ～ 16	工場敷地内の原料保管庫において、フォークリフトを使用して、コンテナに入っている小豆を、別のコンテナに移し替える作業を行う際に、移し替える先のコンテナ上に上っていた被災者がコンテナ内に転落し、コンテナに入っていた小豆が被災者上に落ちてきて小豆に埋まったもの。移し替える先のコンテナ上に、フォークリフトのフォークを刺したままで小豆が入っているコンテナを半分程度ずらして乗せた状態であった。	611	1	50～ 99
2019	2	8 ～ 10	事業場敷地内の雨水等貯留用のコンクリート製沈殿槽から隣接する同社管理の農地へ農業用水を配水するにあたり私有農道に塩ビ製配管を約150 m敷設する作業中、被災者は深さ1.9 m、幅0.8 m、長さ約12 mにわたって掘削した溝内で床均し作業等を行っていたところ、掘削溝の側壁が長さ5.8 m、高さ1.8 mにわたって崩壊し、埋まったもの。	711	5	1～9
2019	3	10 ～ 12	フォークリフトの爪の部分に労働者を乗せて、棚に置かれた荷物（5キロ）を取ろうとしたところ、爪の部分から足を踏み外して約2.5メートル下のコンクリート床上に墜落し、頭部を強打し死亡した。	222	1	1～9
		14	被災者は、飼料工場内で2.5 tフォークリフトを用いてフレコンバックに入った飼料（500 kg）をサイドクランプの片方の爪で吊って運搬作業をしていた。夕方ごろ、大きな音が響いたため同僚が駆け付けたとこ			

2019	5	～ 16	ろ、フォークリフトが横転し、フォークリフトの後方フレームに胸部を挟まれ下敷きになっている被災者を発見したものの。なお、現場に段差はない。	222	2	1～9
2019	12	8 ～ 10	被災者が朝礼に欠席したため、同僚が探したところ、工場西側のシリンダーラック倉庫にあるクレーンの走行レール上に頭部から流血して倒れているところを発見した。発見位置と血痕から、クレーン設置の梯子から墜落したと推定されるが、墜落箇所は不明。搬送先で即死の確認をしたものの。作業内容は不明であるが、発見時にクレーン操作が自動から手動となっていた。被災者は簡易キャップを着用、安全帯の使用なし。	211	1	100 ～ 299
2019	12	6 ～ 8	牛の飼料生産の受託先の敷地内で、トラクター・ショベルでバンカーと呼ばれる飼料置き場の飼料をならしていた際、近くに居た被災者が自分の持ち場に戻っていったところを確認したため、停車させたトラクター・ショベルを前進させたところ、被災者が急に後ろ向きによるめき、後頭部から地面に倒れたため、ブレーキが間に合わず、トラクター・ショベルの右前輪に轢かれ、死亡したものの。	141	7	30～ 49
2018	2	10 ～ 11	フォークリフトで持ち上げていた貯水タンクが落下し、付近にいた被災者にぶつかり、肋骨が折れ、当該肋骨が肺に刺さり肺挫傷により死亡したものである。なお、当初被災者は経営者であると考えられたが、その後労働者であることが判明したものである。	379	4	10～ 29
2018	3	～ 13	ガラス繊維織物を製造する高速部分整経機を使用して、ガラス繊維製の経糸（たていと）を直径10.5cmの鉄心（ビームという）に巻く作業において、手が糸と共に巻き込まれ死亡したものの。	169	7	10～ 29
2018	6	8 ～ 9	敷地内において、木製の柱（高さ約3メートル）に、アンカーボルト（上下2か所）及び、結束バンドで固定していた、鯉のぼり用金属製ポール（高さ12メートル、直径5センチメートル）を撤去しようとしていたところ、上部のアンカーボルトを支点にポールの先端が北西方向に倒れ、ポールの根本付近（南東方向）に、被災者が仰向けに倒れていた。	521	6	1～9

2018	8	14 ～ 15	被災者は、高所作業車の清掃作業に従事していた。作業を中断し、作業床上で仰向けに転倒した。災害発生時の作業内容は不明。被災者は、災害後、入院加療中であつたが、急性硬膜外血腫及び脳挫傷により死亡した。	416	2	1～9
2018	10	18 ～ 19	鉄・非鉄スクラップ加工処理場において、トラックの荷台上のスクラップを重機に取り付けたリフティングマグネットを使ってつり上げ作業をしていたところ、荷台内にいた合図者兼トラック運転者である被災者に、リフティングマグネットが激突したものの。	212	6	1～9
2018	10	10 ～ 11	畑地拡張のためチェーンソーによる杉の伐木作業を行っていたところ、伐倒した高さ約17m、胸高直径約23cmの杉が、伐倒木付近にいた被災者に激突し被災したものの。伐倒の際、杉が想定外の方向に倒れないよう高さ約4mの箇所をドラグショベルのバケットで押しながら伐倒を行っていた。また、チェーンソーを使用し伐倒を行っていた者、玉切りをしていた被災者ともにチェーンソーの特別教育を修了していなかった。	712	6	10～ 29
2018	10	0 ～ 1	被災者は製品の投入から排出までが自動化された銅錫鍍金装置を稼働させており、装置の一部である段バラシ機に製品台車をセットしていた際、段バラシ機内部に進入し、稼働しているアームと台車との間に胸部を挟まれた状態で発見された。段バラシ機は安全囲い及びインターロック付きの扉に囲まれていた。被災者が内部に進入した理由及び扉が閉じた理由は不明である。意識不明の状態が続いていたが、後日死亡した。	321	7	100 ～ 299
2018	11	12 ～ 13	牛用飼料の製造・梱包・出荷を行うセンター内において、エアブローを使用し、被災者がベルトコンベヤのローラー周辺の掃除作業を行っていた時、同機械を停止させずに掃除作業を行い、回転するベルトコンベヤのローラーとコンベアベルトの間に両腕を挟まれ、出血死したものの。	224	7	50～ 99
2018	12	14 ～ 15	被災者を探していた工場長が、工場内のバーナー室において、乾燥キルン付属の回転するホイールとバーナー発生装置の間に上半身を突っ込んだ状態の被災者を発見したものの。	121	7	1～9
2018	12	12 ～	被災者は、事業場敷地内で伐倒した杉の枝払いをしていたが、杉と地面の	712	4	1～9

		13	間に頭部を挟まれた状態で発見されたもの。			
2018	12	8 ～ 9	ドライアイスの製造工場にて、自動包装用産業用ロボットを用いて、角形のドライアイスの梱包作業を行っていたところ、産業用ロボットのアームとドライアイスに被災者が挟まれ、同日死亡したものの。	167	7	1～9
2018	12	8 ～ 9	ペットボトル選別作業場内にあるスクリーコンベアに挟まれている被災者を同僚が発見したもの	224	7	1～9
2017	1	16 ～ 17	ベルトコンベアのベルト交換作業を4名で行っていた。被災者等は、ベルトコンベアを稼働させた状態でスナップローラーに付着した泥等をハンマーで叩いて取り除いていたところ、被災者が左腕から胸部までをスナップローラーとベルトに巻き込まれ、死亡した。	224	7	1～9
2017	1	12 ～ 13	ユニットハウス製造現場において、関係請負業者として、外装、内装の製造を請け負っていた当該事業場の労働者が、ユニットハウス屋根（高さ2.6m）より墜落して、2日後に死亡した。	415	1	1～9
2017	5	12 ～ 13	被災者は自社で修理を行う発電機を、受注先で中型貨物自動車に積み込み帰社途中に、渋滞最後尾のダンプカーに衝突し「多発損傷」により死亡した。	221	17	1～9
2017	8	14 ～ 15	被災者は堆肥の製造のため、トラックの荷台に堆肥の材料を積み、穴（縦5m横3m深さ4m）に当該材料を搬入する作業を一人で行っていたが、トラックが当該穴に転落し、被災者が運転席で心肺停止の状態で見られ、その後、搬送先の病院で死亡が確認された。	221	1	1～9
2017	9	14 ～ 15	廃棄物を入れたロールボックスパレットをフォークリフトに載せて廃棄物用コンテナまで運んだ後、フォークをコンテナ上端まで上昇させて廃棄物をコンテナ内に投棄していたところ、バランスを崩してロールボックスパレットごと転落した。	222	1	30～ 49
2017	11	12	有機肥料を製造するプラントの運転を行っていた被災者が、原料投入口（ホッパー）の下部に設置されているシャフトに挟まれている状態で発見	162	7	1～9

		13	された。			
2017	12	8 ～ 9	ラック上段にパレット積みされたダンボールから必要な分を取り出そうと、本来であれば、フォークリフトでパレットを床へ降ろし作業するところ、今回必要なのは8束80枚と少量だったため、被災者は同僚の運転するフォークリフトのパレットに乗ってラック上段まで上げてもらい、隣の荷の上でダンボールをフォークリフトへ積み替えていたところ、8束目のダンボールを引き抜く際、手が滑りバランスを崩し、床まで6.3m墜落した。	416	1	10～ 29
2017	12	12 ～ 13	被災者は、昼休み後に所定の仕事場へ向かう際に、工場内の階段を登り移動していたところ、側面（高さ約2メートル7センチ）から転落した。	413	1	10～ 29
2016	2	2 ～ 3	長時間労働により「気分障害」を発病し、その後も長時間労働が続いて症状を増悪させ、自宅において自死に至った。	921	90	10～ 29
2016	2	9 ～ 10	チップふるい機の始業前点検中、ベルトコンベアのテールローラー部に巻き込まれた。	224	7	30～ 49
2016	3	3 ～ 4	長時間労働が続いていた被災者が自宅で就寝中、循環器不全のため死亡した。	921	90	50～ 99
2016	4	10 ～ 11	会社7階の事務室の喫煙スペースの回転窓から高さ約21メートル下の道路に転落して死亡した。	419	1	50～ 99
2016	7	8 ～ 9	被災者が、事業場から社用車にて顧客訪問途中に、渋滞の為、高速道路上で停車していたところ、後方から走行してきたトラックに衝突された。	221	17	100 ～ 299
			大型冷蔵棟の4階冷蔵室において、冷凍庫の電動扉の外側で被災者が台車			

2016	9	12 ～ 13	の整理をしていたところ、これを知らずに他の労働者が冷凍庫の内側から電動扉をロープスイッチで開扉したため、被災者は、その扉板と傍の通路に建て付けられていた手動扉の枠柱との間に上半身を挟まれ、病院搬送後に死亡した。	169	7	30～ 49
2016	12	7 ～ 8	出勤のため、事業場構内を歩行中、凍結した路面で転倒し、負傷した。その後、病院に入院し治療していたが、死亡した。	719	2	30～ 49
2015	2	10 ～ 11	木の廃材から堆肥を製造する過程で使用する、破碎した木のチップを運搬するベルトコンベアのエンドローラーに溜まったゴミ（湿ったチップ、泥等）を除去するため、機械を止めずに治具（木片）をエンドローラーに当て掃除していたところ、治具及び右腕がエンドローラーとベルトの間に巻き込まれ、この結果、胸部がベルトコンベアの枠で圧迫され、同日22時23分に胸部圧迫により窒息死した。	224	7	10～ 29
2015	7	3 ～ 4	トレーラーで高速自動車道入り線を走行中に前を走っていたトラックに追突し死亡したもの。	221	17	50～ 99
2015	5	8 ～ 9	被災者は同僚と2人でダンプトラックの運転席に取り付けられた無線アンテナを交換する作業をしていたが、同僚が運転席から外に出る際、荷台を昇降させるレバーに身体が触れ、レバーが下に下がったため、荷台が降下し、その時荷台の下で作業していた被災者が荷台とダンプトラックの車体との間に腰を挟まれたもの。	221	7	1～9
2015	8	14 ～ 15	食品残渣等廃棄物から有機肥料を製造する事業場において、廃棄物の入ったフレコンバックを移動式クレーンにてトラック荷台から荷下ろし作業をしていた被災者が、作業中意識を失って倒れ、事業場内で別の作業をしていた労働者が仰向けで倒れている被災者を発見、救急搬送したが死亡したもの。作業を行っていた場所は廃棄物とおがくず等を混ぜ、発酵させる屋内事業場であり、高温多湿な環境下での作業であった。	715	11	1～9
			物流センターの中2階に間借りする事業場において、商品（カレンダー）の			

2015	7	14 ～ 15	ラッピング、箱詰め及び出荷仕分け等の作業に従事していた被災者が、箱詰め梱包済みの商品（60冊／箱×6箱、計60kg）を出荷パレットに積むため台車で運搬していたところ、安全柵を取り外していた荷揚開口部から約2.8m下に墜落し、頭部を強打したため、搬送先の病院で死亡した。	414	1	1～9
2014	1	10 ～ 11	プラントにて、被災者の同僚作業員がトラクター・ショベル（機体重量5250kg）を運転して堆肥（残渣と牛糞）を混合させる作業を行い、被災者はトラクター・ショベルの後方でスコップを使用して堆肥の後始末をしていた。同僚作業員がトラクター・ショベルを後退させたところ、後方にいた被災者に気がつかずに轢いてしまった。	141	7	1～9
2014	2	16 ～ 17	工場内にて、古畳を解体するためフォークリフトを用い仮置きしている古畳のはいから、荷卸しして移動中、積荷の古畳が不安定な状態であったために崩れ、付近でフォークリフトの誘導をしていた被災者に荷が激突しそうになり、荷を避けようとした被災者が転倒し頭部を強打した。	222	2	10～ 29
2014	8	9 ～ 10	ビニール等の破碎機の刃を交換した際、コンクリート床面から2.07mの高さにある破碎機の作業台上で、刃の取付けボルトをレンチを使い外していたところ、作業台から転落した。	169	1	1～9
2014	11	2 ～ 3	バルクデパレタイザー（自動搬送機）の自動運転中、インターロックがしてある2か所の扉を解除せず、緊急停止ボタンも押さず、安全柵の中に入り込んだところ、デパレタイザーの上部から降下してきたアームとセンサーの間に頭部をはさまれ、死亡した。	224	7	50～ 99
2014	11	10 ～ 11	鉄骨造平屋のスレート屋根の上にて、屋根の補修作業中、スレート屋根を踏み抜き、コンクリート床に墜落し、死亡した。	415	9	1～9
2014	12	8 ～ 9	被災者が3階から1階へ荷物用エレベーターで空段ボール箱を降ろす作業中、空段ボール箱が1階に降りてこないため、1階の同僚が3階まで上がったところ、昇降路の囲いと搬器の囲いの間に頭部を挟まれた状態の被災者が発見された。	214	7	1～9

2013	4	14 ～ 15	バルク車内の製品確認のため、バルク車に固定されたハシゴを昇っていた被災者は、コンクリート地面に墜落した。	221	1	10～ 29
2013	7	9 ～ 10	重合槽内部を清掃中、清掃に使用するため槽内に持ち込んだバケツ内のトルエンに引火し、槽内で清掃作業中の被災者が全身火傷を負った。	512	16	300 ～ 499
2013	1	10 ～ 11	不要となった段ボール箱をベルトコンベヤーにより集積する作業において、ベルトコンベヤー上で空段ボールが詰まったため、被災者は、運転したままのベルトコンベヤー上でその詰まりを取り除いていたところ体勢を崩し、その先にある空段ボールを圧縮する箇所（ベルトコンベヤーとの間隔すき間6cm）に全身が巻き込まれた。	224	7	100 ～ 299
2013	12	10 ～ 11	被災者は、リサイクルされる食品用発泡トレイを回収運搬するため、一人で所属事業場から塵芥収集車を運転し災害発生場所に向かった。災害発生場所に到着後、作業中なんらかの原因により塵芥収集車のテールゲート内に転落し、圧縮板の内側に巻き込まれているところを、災害発生場所の所属労働者により発見された。	221	7	30～ 49
2013	1	8 ～ 9	馬ふんを発酵させ堆肥とする事業場において、バケツをアタッチメントとして付けたフォークリフトのバケツと壁に首をはさまれた状態の被災者が発見された。被災者は、発酵のため堆肥の山をフォークリフトで入れ替える作業を1人で行っており、目撃者はなく、被災直前の行動については不明である。	222	7	1～9
2013	7	14 ～ 15	工場内で爆発が起きて建物が炎上し、2人の被災者は鎮火後に遺体で発見された。建物の中には7人がいたが、建物から逃げることができた5人に怪我はなかった。建物の内部の状況から、アセトンを使用して鮭の軟骨の脱脂・脱水を行っていた部屋で爆発が発生したと推測されるが、爆発が発生した原因、発生した時の状況は不明。	513	14	1～9
			工場内で爆発が起きて建物が炎上し、2人の被災者は鎮火後に遺体で発見			

2013	7	14	された。建物の中には7人がいたが、建物から逃げる事ができた5人に怪我はなかった。建物の内部の状況から、アセトンを使用して鮭の軟骨の脱脂・脱水を行っていた部屋で爆発が発生したと推測されるが、爆発が発生した原因、発生した時の状況は不明。	513	14	1～9
2012	8	13	平屋建て堆肥2次発酵施設屋根の雨漏りを防ぐための工事中、スレート屋根の上で作業を行っていたところ、スレートを踏み抜き、約6.5mの高さから墜落しコンクリート床に頭部を強打し死亡した。	415	1	1～9
2012	3	22	被災者がフォークリフト（最大荷重2.2t）を運転し、圧縮した再生固形燃料（縦1.05m、横1.05m、長さ1.05m、重量590kg）を専用のアタッチメントで挟み、高さ約3.4mに持ち上げ後進したところ、フォークリフトが転倒し、運転席天蓋のフレームで胸部をはさまれ胸部圧迫により死亡した。	222	2	30～49
2012	10	7	出勤した従業員が、事業場の建屋入り口付近のアスファルト上で仰向けに倒れている被災者を発見した。被災者が強い腰の痛みを訴えたため救急を要請したが、骨盤骨折に起因する動脈破裂により、搬送先の病院で死亡した。なお、被災者はフォークリフトの運転を誤り、後方の柱との間に体が挟まれた。	222	7	1～9
2012	9	9	車両の燃料タンクであるガス容器を自動車解体業者から回収し、当該事業場内に保管していた。ガス容器は廃棄処理するものであったが、容器の処理については詳しく指示がされないまま、一般のLPG容器と混在して敷地内に置かれており、被災者はこのCNG容器を解体しようとして、ベビーサンダーで容器を切断していたところ、当該容器が破裂して被災した。	513	15	10～29
2012	6	15	被災者は汚水タンクに設置された排水ポンプの修理作業を行うため、ポンプをタンク内からロープで取り出し、排水ポンプのファンの取り換え作業を行っていた。取り換え作業を終了し、ポンプを戻した後、被災者は工具を置き忘れたことに気づき、タンク内に再度進入したところ、タンク内に充満していた硫化水素ガスを吸引し意識を失い、搬出先の病院で死亡した。なお、被災場所からは、26ppmの硫化水素が検出された。	514	12	1～9

2011	11	12 ～ 13	古畳（わら畳）を裁断する機械の送りローラーに下半身から巻き込まれ、更に、送りローラー背部の5枚の回転刃により下半身を切断されたもの。	169	7	1～9
2011	2	5 ～ 6	1階倉庫での製品出荷準備を終えた被災労働者が、倉庫内の階段で2階へ上がろうとした際に、何らかの理由で階段から転落した。救命救急センターへ搬送されたが、死亡した。	413	1	10～ 29
2011	6	10 ～ 11	テナントビル1階の空調機械室内で空調機修理作業のため、空調機の外装パネルを外したところ、何らかの理由により労働者Aが倒れ、労働者Bは身体を失って座り込んだ。午後1時50分頃、巡回した建物管理会社の担当者が、空調機械室で一人が倒れ、もう一人が意識が混濁した状態で座り込んでいるのを発見し、救急車を要請した。Aが死亡しBは酸欠症で休業した。	715	12	50～ 99
2011	2	11 ～ 12	前記建屋内で発電用タービン部品（鋼製の輪を半分した形状で重量4.1トン）の梱包作業中、被災者が床上操作式のクラブトロリ型天井走行クレーン（主巻80トン、補巻20トン）で同部品を梱包材である木製架台の上方約60センチメートルに移動し据置き位置の微調整のため一旦停止させた。次にクレーンを微調整走行させるところ、同部品が上部から被災者側に反転し、落下した荷と床面との間に被災者が胸部を挟まれたもの。	612	4	1～9
2011	10	8 ～ 9	トラックの荷台から落下した可能性のある積み荷（リサイクル缶等）を拾うため、走行中のトラックの荷台から降りようとしたところ、頭と顔面を地面に強打した。	417	3	30～ 49
2010	12	11 ～ 12	重さ約1.2t（約0.6tの荷2個）の強化ガラスを積んだ資材搬入会社の貨物自動車が、災害発生事業場に到着後、被災者と貨物運転者の2名で荷卸しの準備作業中、天井クレーンに玉掛けをする前に荷の結束ロープを外したため、荷台上の荷が不安定になって崩れ、被災者の方に倒れて、被災者はその下敷きになり、死亡したと推定される。	611	5	30～ 49
2010	11	9 ～	商談に向かう途中、国道の路肩に駐車していたところ、後方より大型ト	221	17	100 ～

		10	トラックに追突され、搬送先病院で死亡した。			299
2010	1	23 ～ 24	被災者は、日本の工場から海外の子会社への出張中、朝礼の時間になっても姿が見えなかったため、同僚が被災者の寮へ行ったところ、被災者が寮の浴室で一酸化炭素中毒により倒れているのを発見されたものである。	514	12	300 ～
2009	12	13 ～ 14	一般国道（片側一車線）をはさんで建屋が隣接している事業場において、道路向いの作業場へ移動するため、被災者が横断歩道のない道路を横断していたところ、被災者の右側から走行してきたトラックに衝突され、全身を強打した。	221	17	10～ 29
2009	6	17 ～ 18	海外の原材料仕入れ先事業場へ技術指導のために出張中、当該事業場で火災が発生し、これを通報するため宿泊施設に携帯電話を取りに行った後、宿泊施設近くで倒れているところを発見された。検視で暴行を受けたと推測される傷が認められているが、怨恨関係等は確認されていないこと、現地の治安が悪いこと等から業務に通常伴う危険が具体化した。	911	90	1～9
2009	11	8 ～ 9	被災者1人だけが休日出勤を行い、セルロイド製の材料を加工する作業開始後、何らかの原因で火災が発生し死亡した。	512	16	10～ 29
2009	1	16 ～ 17	被災者は高さ2.4mの乾燥炉の上に置いていた資材を乾燥炉にはしごを掛けて取りに行き、乾燥炉上から下りていた時にはしごが滑り、高さ約2mから墜落した。	371	1	10～ 29
2009	10	10 ～ 11	本事業場はコンクリート廃材等を粉碎処理して、砂利等に加工し、舗装材として出荷する事業場であり、被災者は、加工した砂利から異物を除去する作業に従事していた。被災者が作業場所内を移動していたところ、砂利等を出荷するためダンプ自動車への積載作業を行っていたトラクター・ショベルと接触し、左後輪にひかれた。	141	6	10～ 29
2009	7	9 ～ 10	被災者は、事業場から市内へ業務のため会社所有の乗用車を使用して村道を走行していた。被災者が交差点に差し掛かったところ、一時停止標識を見落として右方から直進してきたワゴン車が、被災者の運転する乗用車の	231	17	1～9

			右側面に衝突し、さらにその反動で被災者の車は路外へ逸脱し大破した。			
2008	3	10 ～ 11	容器・梱包用廃プラスチックの分別等を行う事業場で、屋外に駐車してあったダンプが動き出し、ダンプとリサイクル用プラスチック置場の鉄柱との間にはさまれて死亡した。	221	7	10～ 29
2008	12	11 ～ 12	自社倉庫脇の資材置き場において、資材を風雨から避けるために単管等で仮設していた仮囲いの解体作業を一人で行っていたところ、屋根部分から約3.1m下に墜落した。なお、被災者は保護帽や安全帯は着用していなかった。	418	1	10～ 29
2008	12	7 ～ 8	早朝出勤して工場内の見回り作業をしていた被災者が、回転し始めた堆肥攪拌機と堆肥飛散防止用の覆いとの間に身体を巻き込まれた後、約2.5m下のコンクリート床面に、うつ伏せの状態で見つけられた。	169	7	30～ 49
2008	7	4 ～ 5	仕事中のストレスによる精神的なうつ状態になり、自殺した。	921	90	10～ 29
2008	3	9 ～ 10	発煙筒製造工場敷地内の発煙筒処分場において、使用期限切れで市場から返却された発煙浮信号64個を焼却処分するため、焼却炉を点火し焼却作業の準備をしていたところ、突然爆発して被災者が爆風により吹き飛ばされた。	511	14	50～ 99
2008	5	14 ～ 15	4tトラックで金属のスクラップを回収して納品先の構内で金属スクラップの荷卸を開始した際、荷台の上のスクラップに直接乗って締め付け金具を外したところ、金属のスクラップが崩れて被災者がバランスを崩して荷台より落下した。その直後に荷台から束ねられたスクラップ（770kg）が被災者に落下して死亡した。	521	5	1～9
2008	11	20 ～ 21	出張先での業務を終えて自宅へ戻る途中、自転車で県道を横断していたところ、左側から走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	300 ～

2008	1	11 ～ 12	被災者と工場長、同僚の3人で炭化鶏糞製造施設で粒状堆肥を炭化処理した新しい製品の製造中に被災者が製品サンプルを炭化製品タンクより採取しようとしたところ、当該タンクの内部に墜落して死亡した。	714	12	1～9
2007	9	9 ～ 10	工場内において、血液釜（ジェル状の血液の水分を飛ばして乾燥させる機械、直径1.8m、長さ5.3m）内に入り清掃作業中、他の作業者が血液釜の起動スイッチを押したため、清掃中の作業者が動き出した血液釜内部の攪拌用羽根にはさまれた。	312	7	10～ 29
2007	3	17 ～ 18	製袋機の原反ロールを取り付ける箇所において、原反ロールを取り替える際に生地をつなぐ作業を行っていたところ、作業着の襟が原反ロールを回転軸にセットするくさびを固定するボルトに引っかかり、巻き込まれた。	169	7	10～ 29
2007	12	8 ～ 9	被災者は、射出成型部品の試作品の成型に立会う業務に従事していた。試作品の金型（重量450kg）は、専用のローラー付の台に設置されていた。被災者は当該金型の下敷きとなり、床に倒れているところを発見された。	612	4	1000 ～ 9999
2007	2	16 ～ 17	被災者は、廃棄物である紙パックの塊を機械で自動的にコンテナボックスへ排出する機械の排出口側に紙パックが詰まっていたために、長さ約1.8mの木製の棒状の先に三角形の金属片が付いた用具を使ってかき出そうと、コンテナボックスの上（ふち）に載って作業をしていたところ、足を滑らせて約1.53m下のコンクリート地面へ墜落した。	391	1	100 ～ 299
2007	8	11 ～ 12	被災者が工場、朝から園芸用の培養土の袋詰めを行い、その後投入ホッパーのベルトコンベヤー、ローラーなどに付着した土などをブラシで掃除していたところ巻き込まれた。被災者は最初はベルトコンベヤーを停止して掃除を行っていたが、途中からベルトコンベヤーを稼働させて掃除を行っていた。	224	7	1～9
2007	1	11 ～ 12	アルミシートに塗料を塗布する製造ラインにおいて、回転しているロール部分の拭き取り作業を行っていたところ左手が巻き込まれ、頭部で引っかかったまま引っ張り続けられたため死亡した。	163	7	10～ 29
			フォークリフト運転者はパレットを移動させる業務を、被災者は梱包物の			

2006	12	18	伝票と製品を確認する採寸の作業を行っていた。フォークリフト運転者がパレットが3、4枚重ねられていたところから1枚をとり、方向転換したところ、倉庫から外へ歩いてきていた被災者の足を後輪で轢き、激突した拍子に被災者は仰向けに倒れた。	222	6	50～ 99
2006	12	8 ～ 9	被災者は、当該事業場建家の2階でエレベーターを操作し、搬器を1階に降ろそうとしたところ、2階床とエレベーターの上枠にはさまれ死亡した。当該エレベーターの搬器は、床面積4.68m ² 、高さ2.35mであった。	214	7	10～ 29
2006	10	17 ～ 18	テレビ工場で使用する機械部品の下部の油を拭き取るため、同部品をクレーン（最大荷重2.8トン）で吊り上げていたところ、吊り上げるための玉掛ワイヤが切断し、同部品が被災者の方に倒れてきた。	372	4	30～ 49
2006	8	11 ～ 12	会社所有の軽自動車にて移動中、トンネル内で大型貨物自動車など7台による玉突き事故に前から4台目の位置で巻き込まれた。被災者の車両は前後の大型貨物自動車にはさまれ大破した。	231	17	10～ 29
2006	8	20 ～ 21	打ち上げ花火の着火作業に従事していた被災者が、打ち上がった花火の円筒周辺の火の粉を払っていたところ、突然不発花火が打ち上がり、被災者に当たった。	391	6	10～ 29
2006	7	17 ～ 18	杭打ち工事を終え、帰るため4名が2台に分乗して出発した。1台は運転者と被災者が乗車し杭打ち機を積んでいた。高速自動車道に入り走行していたところ、左カーブでトラックが横転し、被災者は死亡。運転者は骨折した。	221	17	10～ 29
2006	4	8 ～ 9	ダンボールを糊で圧着させダンボールスキット（パレット）を製作する機械のメンテナンス（スライドレールへの油さし）作業中、電源を切らずに油さしを行っていたため、リミットスイッチに触れた拍子にエアシリンダーが作動し、圧着プレートと機械のフレームとの間に挟まれた。	169	7	1～9
2006	5	17	被災者は、リサイクル工場において、搬送のために圧縮された廃ペットボトル塊を解体する機械に廃ペットボトル塊を投入していたところ、当該投	169	7	10～ 29

		18	入口から墜落し塊を解す回転体に巻き込まれた。			
2006	3	8 ～ 9	脚立をはしご状にして使用し一人で看板の寸法の計測作業中、はしごとともに転倒した。被災後、自ら車を運転して帰宅したが、自宅で倒れている被災者が発見された。	371	1	1～9
2006	3	8 ～ 9	工場構内通路（屋外）において、被災者がパレットに乗った荷を運ぶため、フォークリフトの爪の幅の調整をしていたところ、工場内の設備解体工事の廃材を搬出するために構内へ入場していたトラックが、バックで走行してきたため、トラック荷台の後部とフォークリフトのバックレストの間に挟まれた。	221	7	300 ～
2006	1	16 ～ 17	高さ約3m、長さ11m、幅3mのクローラー付きの移動式木くず破砕機に上り、凍結防止用の養生シートをかける作業を行っていたところ、高さ約1.5mの位置にあるホッパーの上から圧雪地面に墜落した。	169	1	30～ 49
2006	1	14 ～ 15	鉄骨2階建ての自然落下式の屋根上で雪下ろしの作業を8名で行っていたところ屋根に積もっていた約1.5mの雪が滑り落ち、雪とともに作業員2名が屋根から約2.7m下の雪上に墜落した。	719	1	10～ 29
2005	8	18 ～ 19	乗用車で高速自動車道を走行中、追い越し車線でスリップして左側ガードレールに衝突、さらに車がスピンして反対向きの形になったところ、走行していた後続のトラックと正面衝突した。	231	17	10～ 29
2005	12	8 ～ 9	工場内において、製造装置の清掃作業を行っていたところ、コンクリート床面に墜落した。	169	1	10～ 29
2005	9	15 ～ 16	軽トラックを運転中、工場棟の取付け道路の路肩から前輪が逸脱し、軽トラックごと高さ6mの法面を転落した。	221	17	30～ 49
2005	3	14 ～ 15	社員寮の風呂場清掃中に、持病を発症して浴槽内に転落し、溺れた。	713	10	30～ 49

2005	3	10 ～ 11	岸壁上においてあったタラップに乗った際、タラップが横転し、海中に転落した。	371	10	10～ 29
2005	3	0 ～ 1	圧縮式ごみ収集車へのダンボールの積込み作業において、プラットホーム上からごみ収集車のホッパー内にダンボールを投入していたところ、作動中の回転板に巻き込まれた。	221	7	10～ 29
2003	12	10 ～ 11	倉庫内にあった鶏糞肥料（15kg、50袋、3段積み）の一部が崩れ落ちていたので、荷の脇で積み直し作業を行っていたときに、北隣の3段積みの肥料が南側に荷崩れして積み直し作業をしていた者が下敷きになった。	611	5	1～9
2003	12	15 ～ 16	倉庫内において、同僚3名とトレーラーから木枠で梱包されたガラス板（総質量2t）を天井クレーン（2.8t）により荷卸する作業で、荷台上に自立した木枠の転倒を防止するため、木枠とその対面にある鉄枠の間に角材をはさみ込んで支えていたときに、角材が外れたため木枠が倒れてきて激突され、頭部を木枠と鉄枠との間にはさまれた。	611	5	10～ 29
2003	12	17 ～ 18	ラインジョイントシール場において、マスキング（鋼管にビニールテープを貼りつける）作業およびジョイント（鋼管同士を工具で繋ぐ）作業を行っていたときに、次にマスキングを行う鋼管が移動してきて背後から激突され、前にあったマスキングを終えた鋼管との間にはさまれた。	159	7	30～ 49
2003	11	8 ～ 9	地盤改良工事のための船上設備のぎ装作業中に、リーダー（砂杭打設時にケーシングパイプを海底に打ち込むためのガイド鉄塔）をよじ登って移動していたときに、下降してきたスキップ（リーダーに沿って昇降する砂運搬用のバケット）とリーダーとの間にはさまれた。	143	7	50～ 99
2003	11	20 ～ 21	花火大会において、水中花火と打ち上げ花火（4寸玉2発）を組み合わせた最後の演目の点火をした直後に打ち上げ花火が爆発し、花火打ち上げ作業に従事していた花火師2名が死亡し2名が負傷した。（死亡した2名のうち1名は事業主で非労働者）	511	14	10～ 29
2003	10	11	飼料の入った袋（重さ約450kg）の運搬をトラクター・ショベルで行うため、バケットのフックに袋を掛けようとショベルの運転席からアームの上	141	1	1～9

		12	を歩行していて墜落した。			
2003	10	10 ～ 11	営業のため普通乗用車を運転して自動車道を走行中、トンネル内で故障のため時速30kmで走行していた2tトラックに追突した。	231	17	100 ～ 299
2003	8	11 ～ 12	粘土ブロック状の原料を押出して線香に成型する機械の原料投入口に残った原料を取除くため、頭と右腕を原料投入口の中に入れてドライバーで取り除いていたときに、機械が作動したため押し出し装置と原料投入口のへりに首から肩をはさまれた。	169	7	10～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	511	14	10～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	511	14	10～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	511	14	10～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	511	14	10～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	511	14	10～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	511	14	10～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	511	14	10～ 29
		13	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が			10～

2003	4	～ 14	死亡した。	511	14	29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	511	14	10～ 29
2003	4	13 ～ 14	花火製造所の火薬配合所で火薬配合中、何らかの原因により爆発し9名が死亡した。	511	14	10～ 29
2003	2	16 ～ 17	貸しおしぼりの洗濯行程（自動ライン）において、おしぼりの圧縮プレス機（脱水機）の作動を確認中にプレス機に頭部をはさまれた。	169	7	30～ 49
2003	2	10 ～ 11	貴金属の販売のため高速自動車道を走行中、吹雪きのため発生した多重衝突に巻き込まれた。	231	17	1～9
2001	11	16 ～ 17	住宅用壁パネルの製造工場において、成形工程から塗装工程へ壁パネル材を搬送するため、専用台車に積み込まれていた小型壁材を能力1tの天井クレーンで吊り上げようと横行操作をしていたところ、専用台車が横転し台車のフレームに挟まれて右足を切断した。	211	6	300 ～
2001	10	11 ～ 12	2. 5tフォークリフトで工業用の空気清浄機ボックス(質量約800kg)を台車に乗せ、手押しで、台車ごと動かしたときにボックスが転倒して胸部をボックスと床面との間に挟まれた。	362	5	30～ 49
2001	9	15 ～ 16	トレーラー荷台に積んでいたプラスチックを10tダンプ車に積み替える作業で、ダンプのシート納め台に乗り移ったときにバランスを崩して墜落し、隣接していたダンプの着脱式荷台上部で頭部を強打した。	221	1	30～ 49
2001	5	13 ～ 14	会議終了後帰社のためオートバイで走行中、対向の乗用車が突然右折したため正面衝突し、6mほど跳ね飛ばされた。	231	17	10～ 29

2001	9	14 ～ 15	鉄鋼センター構内の屋外にあるヤードにおいて、鋼製橋脚内部をスプレーガンによりタール塗装を行っていたところ、手持式照明灯が割れたため着火源になり、タール塗料に含有していた有機溶剤の蒸気に引火し、全身に火傷を負った。	512	16	1～9
2001	2	11 ～ 12	吊りチェーン2本で玉掛けした小型電気炉(280kg)を、吊り上げ荷重2.8tの天井クレーンで吊り上げたところ、チェーンが掛けられていた電気炉の扉が外れて電気炉が廃材の山を転げ落ち、下にいた者の頭部に激突した。	612	6	1～9
2001	8	11 ～ 12	1. 5t積トラックの荷台に積んであったアルミサッシ20枚の荷卸しを行うためロープを解いたところ、荷台に積んであったアルミサッシが倒れ、サッシとブロック塀との間に挟まれた。	611	5	10～ 29
2001	8	17 ～ 18	人參選果場での作業を終え8人が2台の車両に分乗して宿舎に帰る途中、1台の車両(軽乗用車に4人が同乗)が直線道路で前のワゴン車を追い越した後に運転を誤り道路左側の路外に転落し、隣接する自動車学校の敷地内にあった重機に衝突して2人が死亡、1人が脳挫傷で意識不明の重体を負った。	231	17	30～ 49
2001	8	17 ～ 18	人參選果場での作業を終え8人が2台の車両に分乗して宿舎に帰る途中、1台の車両(軽乗用車に4人が同乗)が直線道路で前のワゴン車を追い越した後に運転を誤り道路左側の路外に転落し、隣接する自動車学校の敷地内にあった重機に衝突して2人が死亡、1人が脳挫傷で意識不明の重体を負った。	231	17	30～ 49
2001	5	16 ～ 17	飼料を入れたフレコンバッグ(質量500kg)の上でバッグの上部にある吊り下げ用の取っ手をフォークリフトの爪に掛ける作業をしていたときに、横に積み上げられていた他のフレコンバッグが崩壊し、そのフレコンバッグとフォークリフトの爪に挟まれた。	611	5	30～ 49
2001	5	13 ～ 14	鉄製のケース(質量500kg)を2.8tホイスト式天井クレーンで吊って移動中、ワイヤロープがフックから外れてケースが倒れ、下敷になった。	211	4	10～ 29
		13	フォークリフトでトランスバック(500kg)に入った原料を吊り下げて運搬			

2001	4	～	し、トランスバックを開けてサイロに投入後フォークリフトを後退させた	222	2	50～ 99
		14	ところ、サイロ進入路の左側に逸脱して横転し下敷きになった。			
2001	2	～	製畳工場の屋根の雨樋にたまった雪やごみを清掃するため、5mの高さに	415	1	1～9
		10 ～ 11	ある換気窓から屋根に乗り移って雪やごみを取り除き、続いてスレートの 交換のため取り除いたスレートをフォークで降ろしているときに、スレー トを踏抜き約6m高さから墜落した。			
2001	1	～	鉄骨2階建工場の2階部分で粉体塗装作業を行っていたときに火災が発生	418	16	10～ 29
		14 ～ 15	し、3名が焼死した。なお、2階部分には、焼付炉及び乾燥設備の熱風発生 装置などがあつた。			
2001	1	～	鉄骨2階建工場の2階部分で粉体塗装作業を行っていたときに火災が発生	418	16	10～ 29
		14 ～ 15	し、3名が焼死した。なお、2階部分には、焼付炉及び乾燥設備の熱風発生 装置などがあつた。			
2001	1	～	鉄骨2階建工場の2階部分で粉体塗装作業を行っていたときに火災が発生	418	16	10～ 29
		14 ～ 15	し、3名が焼死した。なお、2階部分には、焼付炉及び乾燥設備の熱風発生 装置などがあつた。			
2000	4	～	堆肥工場トラックに堆肥を積載し、計量器に乗るためバックで走行中に	221	2	100 ～ 299
		9 ～ 10	トラックが横転し、トラックの下敷きになった。			
2000	7	～	工場廃液の排水処理装置の石灰石槽の入口部にあるピット(廃液が石灰石	514	12	30～ 49
		6 ～ 7	の槽に入る前のピット)底部の汚泥を除去するため、ピット内に入り作業 を開始したが倒れ、救出に向かった他の2名も同じくピット内で倒れた。			
2000	7	～	工場廃液の排水処理装置の石灰石槽の入口部にあるピット(廃液が石灰石	514	12	30～ 49
		6 ～ 7	の槽に入る前のピット)底部の汚泥を除去するため、ピット内に入り作業 を開始したが倒れ、救出に向かった他の2名も同じくピット内で倒れた。			
2000	7	～	工場廃液の排水処理装置の石灰石槽の入口部にあるピット(廃液が石灰石	514	12	30～ 49
		6 ～ 7	の槽に入る前のピット)底部の汚泥を除去するため、ピット内に入り作業 を開始したが倒れ、救出に向かった他の2名も同じくピット内で倒れた。			

2000	6	14 ～ 15	簡易テント倉庫の解体作業において、軽トラックの荷箱を上昇させてその 床上で作業中に2.4m下の地面へ墜落した。	146	1	1～9
2000	4	11 ～ 12	自動定量充填包装機の電源を入れたままの状態で行っていたと きに、休憩のため他の者が機械の電源を遮断してしまったため起点に戻る ため動いた機械に挟まれた。	169	7	10～ 29
2000	9	11 ～ 12	製品を納品して7.5tトラックで県道を走行中、反対車線を走行して来た積 載型トラッククレーン(吊り上げ荷重2.93t)のジブ右側面が電柱と接触し た反動でジブが180度旋回し、7.5tトラックの運転席を突き破り、ト ラックはセンターラインを超えて反対車線の後方を走っていた他の移動式 クレーン車に衝突した。	212	17	1～9
2000	1	8 ～ 9	倉庫に運び込まれたトラックのコンテナの右扉を開いたところ、荷造りさ れたパーム繊維の束、1束(質量150kg)が落下して顔面を直撃した。	611	4	10～ 29
2000	2	0 ～ 1	飼料製造工場において、大麦を搬送するスクリューコンベアー付近が汚れ ているのに気づいて清掃のため近づいたときに、動力伝達用のシャフトの 接合部に着衣の一部が巻き込まれて全身を振られた。	121	7	10～ 29
2000	12	8 ～ 9	プラスチック選別コンベヤの始業点検中、コンベヤベルトとヘッドプー リーとの間からまっているビニールひもをコンベヤを動かしながら取り 除こうとして右腕、腰、上半身等がコンベヤベルトとヘッドプーリーと の間にはさまれた。	224	7	50～ 99
2000	4	11 ～ 12	ブーケ等を押し花額に製造する工場において、花びらの水分をアルコール で置換する作業中に転倒して作業台上にあったタッパーを落下させたため アルコールを全身に浴び、近くの石油ストーブの火が引火した。(作業場 も全焼)	512	16	1～9
2000	3	10 ～ 11	空ドラム缶の洗浄ラインの修理作業中に、自動で順送りされるドラム缶と 前のドラム缶との間に挟まれた。	521	7	30～ 49

2000	7	8 ～ 9	建物1階の荷物用エレベーターの出入口から昇降路に立ち上がったため、降りてきた搬器の下敷きになった。	214	4	10～ 29
2000	4	13 ～ 14	家庭用浄水機の最終水漏れ検査のため、浄水機の出水側ホースを折り曲げ注水側ホースから圧縮空気(7kg弱)を吸入していたところ、突然、浄水機の濾過材の入った樹脂製カートリッジ(重量3kg)が接合部から外れて頭に激突した。	529	6	10～ 29
2000	3	18 ～ 19	倉庫内で翌日使用する材料をフォークリフトで運び出そうとしたが荷の間隔が狭いので、3. 3m程度に積み上げられた古畳に上り荷を動かそうとしたときに古畳が倒壊し、下敷きになった。	611	5	1～9
2000	12	10 ～ 11	堆肥を少量ずつベルトコンベヤーに落とす機械を動かしたまま掃除を行っていた、供給機を羽根が十字についている流量調整棒に被災者が着用していたナイロン製ジャケットとマフラーが巻き込まれて、頸部が絞められた。	169	7	30～ 49
1999	1	9 ～ 10	スクリーコンベア付近でホッパーの掃除を行っていた、露出していたスクリーコンベアに巻き込まれた。	224	7	1～9
1999	3	7 ～ 8	就業場所である工場2階に向かうときに、2cmの積雪のため屋外階段からコンクリート上に転落した。	413	1	100 ～ 299
1999	11	7 ～ 8	4tダンプでおがくずの回収作業を行っていた者がダンプから約10m離れた地点で倒れているのを発見された。	221	1	1～9
1999	12	16 ～ 17	工場内2階(高さ約3m60cm)に保管してあるカット済みのウレタンをスロープを使って1階へ降ろしていたところ、スロープと2階手すりの隙間から1階へ墜落した。	416	1	10～ 29
		9	工場内にあった積荷(医療機器：重量約1トン：高さ2m，幅1. 8m，厚さ約20cm)を、ハンドリフト(積載重量1. 5トン)で移動して、目的の場所に			10～

1999	11	10	到達して停止したときに積荷がバランスを崩し床にたおれたため、その下敷きになった。	362	5	29
1999	11	16	肥料発酵棟の汚泥醗酵トレンチ内の汚泥を均しながら走行していた「切り返し攪拌機」の脇を歩行中、攪拌機の側面に設けられている操作盤と建屋	169	7	1～9
		17	の支柱との間に挟まれた。			
1999	9	14	倉庫からフォークリフトを運転して市道の向側に行くため道路を横断して	222	17	30～
		15	いるときに、道路を走行してきたごみ収集車と激突して、フォークリフト			49
		17	が横転し、その下敷きとなった。			
1999	8	17	3tの平ボディトラックの荷台で同僚と前側に高さ約2.5mに山積された	221	1	10～
		18	発泡スチロールの板(畳の芯材)を並び替えていたときに、荷台の高さ約			29
			70cmの発泡スチロールの板の山の上から約1.7m下のアスファルトの地面に転落した。			
1999	7	13	機体重量5.7トンのトラクターショベルで培養土を作るために材料を混ぜ	141	6	100
		14	る作業中、たい肥の原料ヤードに移動するため約24メートル直進させたところ、進行方向の地面に座り込んで打合せをしていた者2名をトラクター			～
			ショベルのバケットとタイヤでひいた。			299
1999	2	14	1階と2階とをつなぐ荷物運搬用リフトに乗り上昇している途中、下方の簡	214	7	10～
		15	易リフトの手すりに頸部をはさまれた。			29
1999	2	21	原動機付自転車で走行中、左側から出てきた貨物車に衝突され、反動で対	221	17	1～9
		22	向車線にはみ出したところに走行中の乗用車が衝突した。			
1999	4	5		231	17	1～9
		6	車で取引先へ向かう途中、左カーブで道路右側の電柱に衝突した。			
1999	4	10	配合飼料の入ったフレコンパックをフォークリフトで運搬し、空パックを	222	6	10～
			回収するため走行中、配合飼料入りフレコンパックを吊下げ走行してきた			

		11	同僚の運転するフォークリフトにひかれた。			29
1999	4	8 ～ 9	トラクターショベルで、鶏糞発酵場から鶏糞が山積みされた原料置場へ運搬中、原料置場の斜面でショベルが転倒し、その下敷きとなった。	141	2	1～9
1999	3	13 ～ 14	500kgトランスバック2個をフォークリフトで吊上げトラックに積込み、フォークリフトが後退したのでトラックに乗り込み前進させたが、「ボタン」という音がしたのでトラックから降りてみると、フォークリフトが倒れてオペレーターが下敷きになっていた。	222	2	10～ 29
1999	2	9 ～ 10	同僚と二人で行うタワークレーンポストの整理作業で、同僚が門型クレーンでポスト4を運んできて降ろしかけたときに、以前から置いてあったポスト1～3が荷崩れを起こし、ポスト3と4との間に挟まれた。（ポストの重量は、2及び3が2・4トン、1及び4が2・8トン）	211	7	10～ 29
1999	2	9 ～ 10	コーヒー販売機据え付けのため走行中、対向の軽自動車がカーブを曲がりきれずに中央線を越えてきて、車の前方を走っていた車に一度衝突したの い後の車に衝突し炎上した。	231	17	1～9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。